

新春お楽しみ会

1 B病棟 石川さをり

今年のお楽しみ会はかるた取り大会をしました。かるたと
言っても、利用者の方の趣味や好きなことなどを盛り込んだ1
B病棟創作かるたです。札の種類は「背の高いイケメンよりも
オジサンが好き」「車いすでお散歩したいな、父さんと」
「うっしし☺ 今日ちラシの紙吹雪」などです。絵札には
好きな芸能人やキャラクターなどを貼った物を作りました。か



るた大会は各部屋4人1チームのトーナメント戦での対戦で
す。外は寒いですが、1 B病棟は札を取り合う女子たちの熱
戦が繰り広げられました。特に決勝戦はデットヒートで、
じゃんけんで決まった最後の札で勝敗が決まり、大盛り上が
りでした。利用者の方からかるたを貼って欲しいと要望があ
りましたので、しばらく展示してあります。



**新年あけましておめでとうございます
本年も府中療育センターをよろしくお願いたします！**



〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

府中療育センター新聞

東京都立府中療育センター 第517号 発行日 令和3年1月31日

新年の御挨拶

院長 澁谷和彦

皆様、明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染に明け暮れた2020年から脱却すべく、2021年という新しい年が始まりました。しかし、現時点で新規感染者数は減少せず、首都圏の緊急事態宣言が再び発せられるという波乱の幕開けとなりました。

都内において無症状の陽性者が増加しており発生を完全に抑えることは難しい状況にあります。だからこそ、たとえ陽性者が出て大規模なクラスター発生を阻止できるように、ICTを中心に全職員が協力して感染予防対策を講じております。また、同じメディカルキャンパス内にある多摩総合医療センター、小児総合医療センター、神経病院の各施設には、PCR検査の施行をはじめ様々な御対応を頂いております。この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

先が見えない状況下でも、新しい年の始めには明るい希望を感じずにはられません。全世界で進められているワクチンを含めた対策が奏効し、感染が1日も早く収束に向かうことを切に願っております。今後とも、私どもがすべきことを日々考え実行して参りますので、引き続き御理解および御支援を頂けますよう宜しくお願い申し上げます。



セクション紹介【放射線】

検査科放射線主任技術員 斉藤正浩

放射線技師は、常勤職員2名、会計年度任用職員2名（月16日）の4名で業務を行っております。月ごとに検査室当番を決めて配置しています。受付クラーク等はありません。

新センターでは新たに、一般撮影装置、新型ポータブル撮影装置、パントモグラフィー、CT装置、骨密度測定装置が導入されました。

一般撮影及びポータブルは、フラットパネル対応としました。撮影後、直ちに画像を確認することができ、医師からも好評を得ています。

CT装置は、対象者が多動や不随意運動が多いことから、高速で撮影できる最新鋭の320列としました。自施設内で検査できることから、診断や治療の迅速化に寄与しています。

骨密度測定装置は、全身対応のDEXA法の装置としました。この方式は、精度が高く誤差も少なく測定することができ、骨密度測定の標準方法とされています。

X線テレビ装置は、今までよりも広い検査室に移設しました。また、従来のポータブル装置は、感染対策用として再整備しました。

放射線部門では、それぞれのX線診断の目的に適した様々な撮影装置を駆使して、診断価値の高い検査結果を医師に提供し、病気の早期診断や最適な治療計画の策定に貢献してまいります。

セクション紹介【リハビリテーション科】

リハビリテーション科主任技術員 柴田広徳

リハビリテーション科を紹介します。以前は、訓練科と呼ばれていましたが新しく科名を変更しました。

リハビリテーション科には、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、心理士（心理）で構成され、常勤は23名、会計年度任用職員13名、計37名の職員数となります。多摩療育園との統合により、外来、通園でのリハビリテーションを行っており、入所、通所とあわせて、あらゆるライフステージでサポートをしています。

リハビリテーション科は1階のほぼ中央に位置するため、センターのどこからもアクセスがしやすい場所にあります。部屋数も多く、目的の部屋がわからず迷われる方も多そうです。

昨年秋には、新たな治療機器として、スパイダー・システムを導入しました。弾力性のある異なるゴムが張られたベルトをつけることによって重力による負担を軽減して様々な運動がひきだせる装置です。他にも様々な機器がありますので、ぜひ見に来てください。



セクション紹介【臨床検査】

検査科臨床検査主任技術員 猪狩真子

臨床検査部門は、常勤3名、会計年度任用職員3名の6名で各種検査を行っています。主な検査は、生化学、血液、尿・便などの検体検査、インフルエンザ、RS、A群β溶連菌などの迅速検査、細菌検査（グラム染色）、輸血検査、心電図・脳波などの生理検査です。

新センターに移転し電子カルテの導入により、検査結果のほとんどがデータ化されました。検体検査だけでなく、心電図や

脳波などの記録波形やビデオ画像も検査終了直後から電子カルテで閲覧できます。迅速・正確・安全に、検査の精度を保ちながら、早期診断・治療の一助となるよう、検査科一同頑張っています。

検査資材の補充や感染対策で、検査科職員が外来や病棟に伺うことがあります。御要望や御質問などありましたら、遠慮せず声をかけてください。また1階検査室にも、ぜひお立ち寄りください。



セクション紹介【看護科】

看護科担当科長 杉田弓子

看護科は3階管理棟各科ボックスのある突き当りに位置しています。事務への用事やボックスの書類回収に来た方々と顔を合わせることが多いので、みなさんもお存じかと思えます。釜看護科長を筆頭に、業務管理を担当している小関担当科長、人材育成を担当している杉田、看護科の環境整備や時には病棟助っ人も担う吉川さんの4人で日々業務を行っています。（総合受付足元のかわいいシールや看護科入口ドアの飾りつけは、実は、釜科長が行っています！）

移転では、誰も経験したことのない利用者さんの搬送は、時間をかけて何度も繰り返し練習した結果が実を結び事故もなく無事にできました。移転後、利用者さんは、プライベートな空間ができて、明るく、快適な施設での生活を気に入ってくださった様子でホッとしています。職員も新しい環境での業務にも慣れ、電子カルテでもみんなで知恵を出しあって頑張っています。

COVID-19。ICTの奮闘と細やかな対策の明示、職員一人ひとりの励行により今現在に至っています。コロナ禍でも、工夫を重ねて実施した各種行事は、利用者さんの笑顔があふれ、職員もほんわかとあったかい気持ちになりました。

看護は多職種との協働がなければ成り立ちません。利用者さんの高齢化に伴い、より慎重なケアが求められる中でも、利用者さんに寄り添うチーム療育を目指していきます。